

MY COLOR

Vol.18

きらっと*とよかわっ! 輝くひと

さまざまな分野で活躍する豊川市出身のトップランナーを紹介します

感謝の気持ちを込めて 私の走りをしたい

〈陸上競技選手〉 蒔田 沙弥香さん



蒔田 沙弥香
(まきた さやか)

金屋小、金屋中、豊川養護学校（現在の豊川特別支援学校）を卒業。現在、中長距離の4種目でID（知的障害）日本記録を持つ。数々の国内外の大会で優勝。ロンドンに続き、2回目となるリオパラリンピックで、女子1500mへ出場する。



リオパラリンピックに向け、市陸上競技場で練習を重ねる

平成28年9月に開幕するリオパラリンピック。ロンドンに続き、女子1500mへ出場する陸上競技選手・蒔田沙弥香さんとご家族にお話を伺いました。

陸上を始めたのは、小学5年生のとき。知的障害があっても、周りの子に負けないことが何かあればと家族で考え、走り始めたことがきっかけだった。

中学では陸上競技部に所属。しかし、大会に出られず、ただ走るだけの毎日を過ごした。それでも進学した養護学校高等部の陸上競技部では、本格的な指導を受けるようになり、大会を目指す陸上競技生活が始まった。卒業後も、高等部の部活動に交じりながら練習を続け、多いときで1日30分も

の距離を走り込んだ。「きつかったけど、ライバルに勝ちたい」という思いを糧に、ひたすら練習に励み、19歳で日本ID（知的障害）陸上競技選手権大会初優勝。以降、年齢とともに着実に力をつけていき、国内の第一人者として、世界で上位に食い込むまでとなった。

27歳のとき、その実力が認められ、ロンドンパラリンピックへ出場。世界の強豪選手を相手に、堂々の5位入賞を果たす。「うれしかった」という満足感もあったが、すぐに目標をリオに定め、再び走り始めた。

その後も、日本記録を樹立するなど活躍を続ける。しかし、この絶頂期に、原因不明の膝の病気を発症し、4カ月間も走ることができなかった。完治後も、気持ち

ちが不安定になり、自分の走りを見失ってしまう。そんな時、支えとなったのが、陸上の仲間だった。走る気分にならない時、手を引いて一緒に走ったり、声をかけたりしてくれた。再び自分の走りを取り戻し、ジャパンパラ陸上競技大会で、頂点へと返り咲いた。

そして、迎えるリオパラリンピック。これまでの功績が評価され、見事、出場の切符を手にすることができた。「勝ちたい。弱い自分にも勝ちたい」と、支えてくれた人たちへ感謝の気持ちを込めて、自分の走りをして、しよつと意気込んでいる。

「東京パラリンピックも出たい」と目標を力強く話す蒔田さん。ひたむきに走り続ける彼女を、これからも応援していきたい。